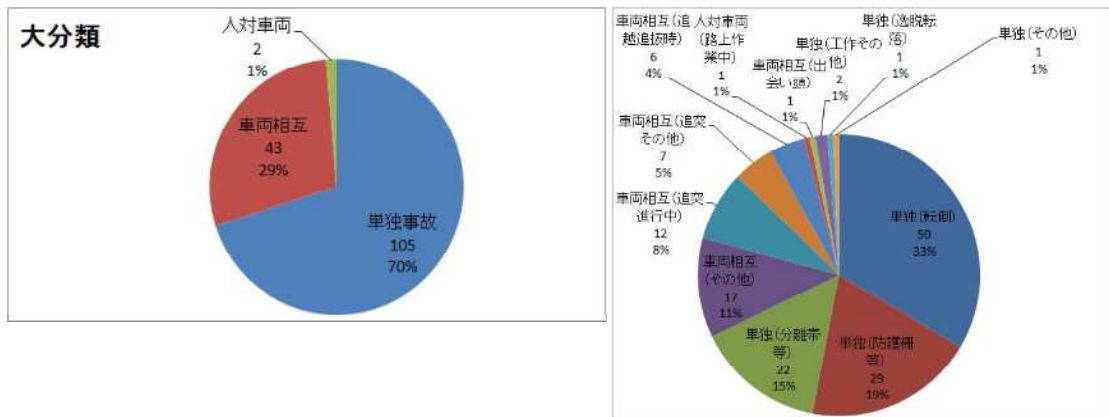


平成24年9月20日
警察庁交通局交通企画課
高速道路管理室

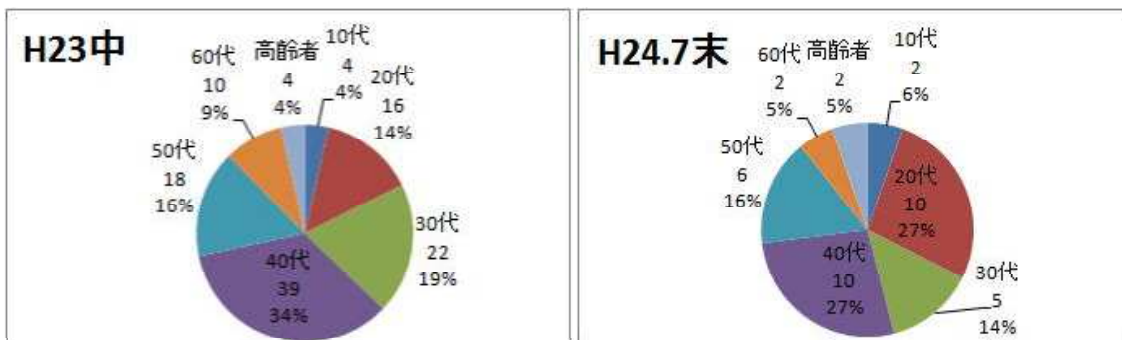
高速道路における二輪車事故の特別調査結果
～気をつけよう！40～50代のライダー！～

警察庁で行った、平成23年中及び平成24年7月末までに高速道路上で発生した自動二輪車が第1当事者となった重傷以上の交通事故150件(死亡事故25件、重傷事故125件)を分析した結果、いくつかの特徴的な二輪車事故傾向が見えてきましたので、紹介します。

- 1 第1当事者が二輪車の交通事故は、約7割が単独事故
対象事故150件のうち、105件が単独事故であり、うち50件が道路施設等への衝突を伴わない転倒事故であった。



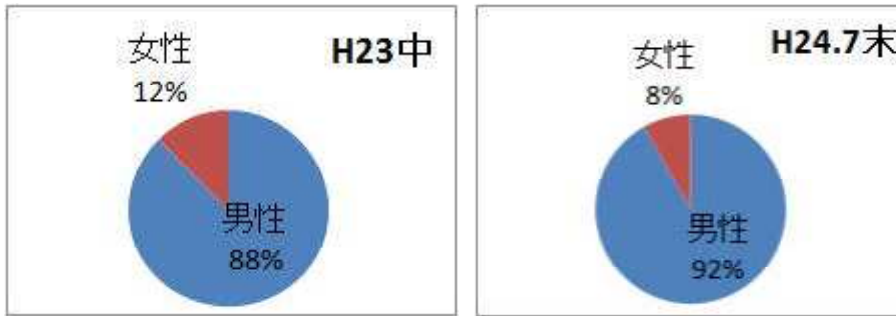
- 2 40～50代が約半数を占める
二輪車事故の第1当事者は、平成23年中は40～50歳代で半数を占め、本年も43%が同年代のライダーである。本年は20代の事故割合が昨年と比べて増加している。



広報資料

3 男性ライダーが大半を占める

二輪車が第1当事者となった交通事故の大半は男性ライダーであった。

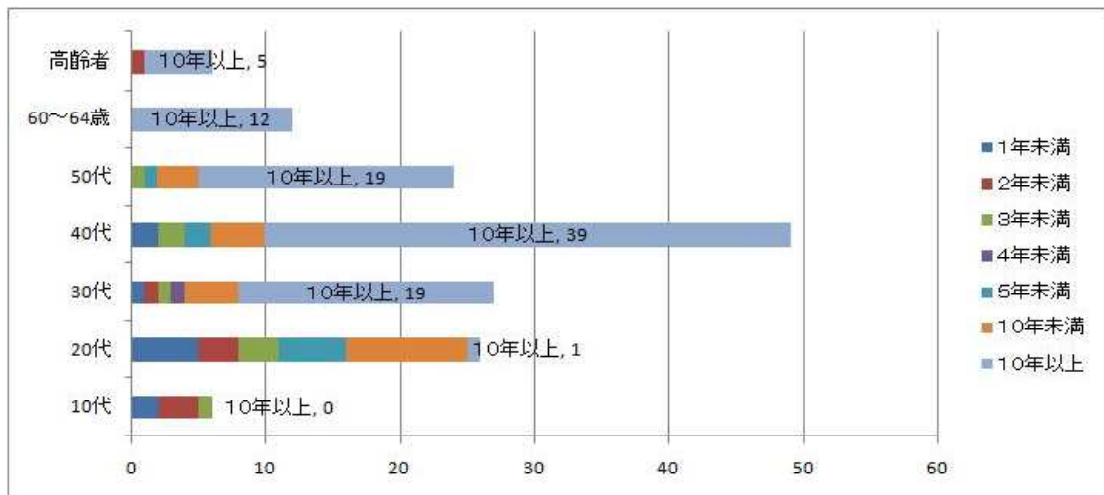
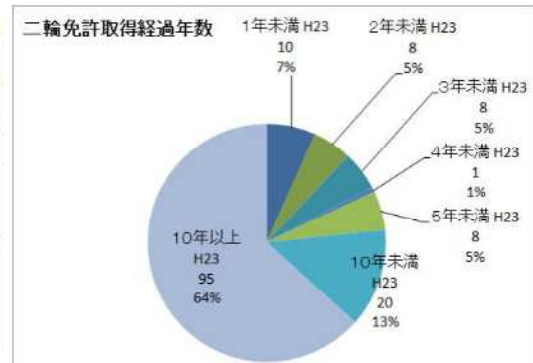


4 第1当事者の二輪免許取得経過年数

高速道路における交通事故で、第1当事者となった二輪ライダーの当該使用車両にかかる運転免許取得経過年数を分析した結果、6割以上が10年以上のベテランライダーであった（但し、二輪車不使用期間は不明）。

○ 事故直前の運転免許取得経過年数

年代	1年未満		2年未満		3年未満		4年未満		5年未満		10年未満		10年以上		割合
	H23	H24.7末	H23	H24.7末	H23	H24.7末	H23	H24.7末	H23	H24.7末	H23	H24.7末	H23	H24.7末	
10代	1	1	2	1	1	1									6
20代	3	2	2	1	2	1			3	2	5	4	1		20
30代	1	1	1	1	1	1					3	1	15	4	27
40代	1	1			1	1			1	1	4		32	7	49
50代				1					1		2	1	14	5	24
60~64歳													10	2	12
高齢者			1										4	1	6
総計	10	8	8	1	8	1	8	20	20	20	85	85	150	150	
割合	6.7%	5.0%	5.0%	0.7%	5.0%	0.7%	10.0%	10.0%	10.0%	60.0%	60.0%	60.0%	60.0%	60.0%	



広報資料

5 第1当事者となるライダーの年代構成推移

平成7年から平成24年7月までの第1当事者が二輪車の交通事故について、ライダーの年代構成を分析した結果、20代ライダーと40～50代ライダーの年齢構成が逆転していることが判明した。

○ 1当二輪車事故(重傷以上)の年代構成推移

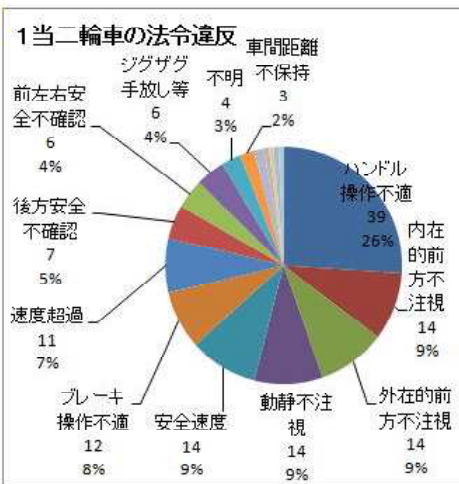
	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
10代	9	14	12	16	11	8	11	3	5	5	4	3	4	1	2	4	4	2
20代	50	37	51	47	44	47	31	39	44	33	36	28	29	23	23	24	16	10
30代	11	15	20	17	22	22	15	23	25	36	21	28	36	29	32	22	22	5
40代	3	4	2	10	10	9	10	10	15	15	17	17	20	18	27	27	39	10
50代	7	4	5	7	4	5	6	8	9	10	12	10	7	16	17	27	18	6
60～64歳	1	1	0	1	2	1	1	1	4	2	3	4	5	3	5	7	10	2
高齢者	1	1	2	2	2	2	4	5	4	4	2	4	4	3	2	6	4	2
合計	82	76	92	100	95	94	78	89	106	105	95	94	105	93	108	117	113	37



6 第1当事者となる二輪車の法令違反

二輪車が第1当事者となる交通事故の法令違反を分析すると、ハンドル操作不適が約26%、前方不注視(内在的・外在的)が約18%、速度関係(安全速度・速度超過)が約16%を占めた。

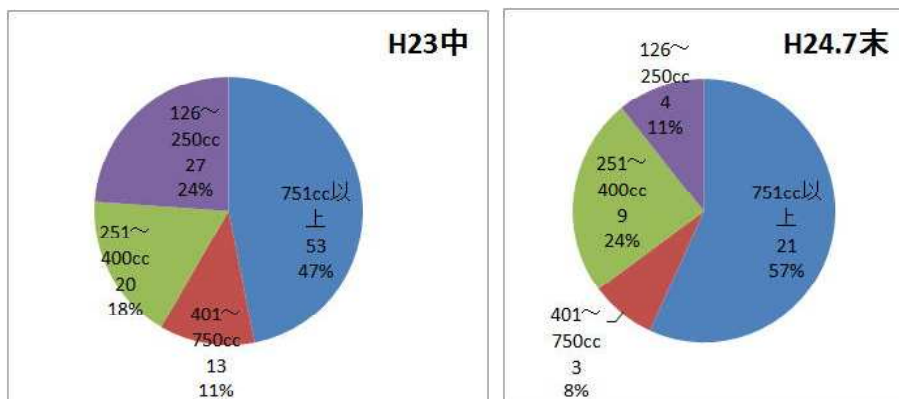
法令違反	H23中	H24.7末	合計
ハンドル操作不適	30	9	39
内在的前方不注視	10	4	14
外在的前方不注視	11	3	14
動静不注視	11	3	14
安全速度	11	3	14
ブレーキ操作不適	9	3	12
速度超過	7	4	11
後方安全不確認	7	0	7
前左右安全不確認	6	0	6
シグザグ手放し等	4	2	6
不明	1	3	4
車間距離不保持	2	1	3
積載不適当	1	1	2
進路変更禁止	1	0	1
追越し方法	1	0	1
予測不適	1	0	1
その他	0	1	1
合計	113	37	150



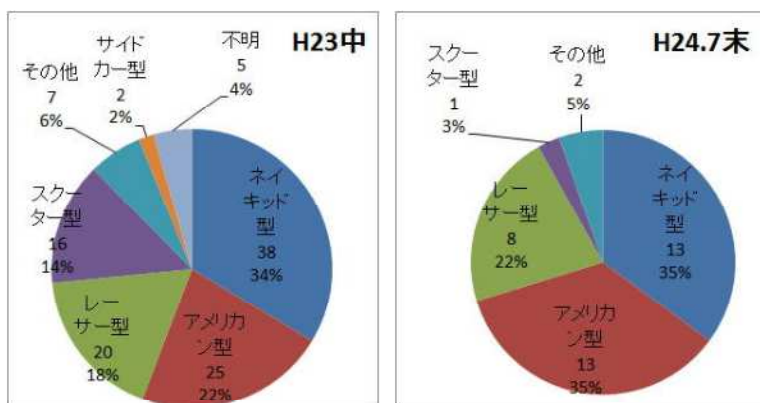
広報資料

7 751cc以上の排気量車両が約半数を占める

排気量別では、大型自動二輪車が多いが、中でも751cc以上の二輪車が第1当事者となる交通事故は、平成23年中は47%、本年は57%も発生している。



8 ネイキッド型、アメリカン型、レーサー型の順で第1当事者となっている。第1当事者の二輪車タイプ別では、3大タイプに概ね分類された。



9 二輪車愛好家の皆さんにお願い

高速道路における二輪車事故は、ハンドル操作不適や漫然運転、速度超過等によって多く発生しています。運転技能に慢心せず、車両性能を過信せず、加齢による身体能力の変化を自覚して、自分に合った安全運転で、事故や交通違反のない快適な二輪車ライフを満喫してください。

10 二輪車販売店の皆さんにお願い

二輪車を販売する際には、速度抑止や追越し方法など高速道路における安全走行に関する助言をしていただき、大切なお客様の安全運転を促してください。